

いくことも可能である。使われるファブリックも非常にトラディショナルで、テーブルクロスなどはとても厚地になり、ピーチスキンのような手ざわりが重要、ソフト感はコットン・シルクの混紡を使っていくことが出来る。軽くキッズな綺麗に描かれた花柄などが追求され、50年代に着想した花柄に、アシッドカラーで彩色した大柄なバイヤスのストライプなどが重要になる。

〈グローバル・ビレッジについて〉

そして最後に、来年のコレクションに見出されるであろうトレンド・ムードとして、グローバルビレッジ「地球村」を上げたい。このグローバルビレッジというテーマはエスニックな流れの中に位置し、過去数年来、エスニックなテーマが上げられてきた。去年はアジアとか、カリブ海風のエスニック、その前はアフリカであったが、今度新しく提案するグローバルビレッジはいったいどの国なのか、地球のどこの民族なのか、明確でないエスニックイメージ、幅広い意味で、エスニックなものど都会的なものとの混り合いという感じがする。現在はインターネットでアフリカとでも、アジアでも、ヨーロッパ、アメリカでも世界中でコミュニケーションが出来る。そういった意味でグローバルビレッジという表現を使っている。これは、春や夏に店頭に出回る様な商品テーマで、テーマの中でも白がまた使われている。特に注目したいことは、大変ダークなカラーに幾つかのビビットなカラー、大変にきつパイオレットとかブルーあるいは赤などが重要である。家具はとてもシンプルで、使われている木材は非常にダークなもの、大変に入念な手の掛った仕上げになっている。テック材は重要な素材、そして椅子にはワラ・ストローを使っていくことが出来る。家全体の雰囲気非常にナチュラルでダークなカラーを使うが鮮やかな色を使うことも出来る。オブジェはビビットなカラー、赤とか青とかで、時には縄に彩色したものでエスニックマインドを出す。照明器具はシンプルでモダンなバージョンに仕立てたフォークロア調で、照明器具の足のところにシルバーなどを使う。又、エスニックの雰囲気を出すための玉飾り、オブジェにも民族的なマインドを、一見プリミティブな雰囲気であっても素材はラテックのような非常にモダンなものを使う。そのようなオブジェ、とりわけ写真立てなどはダークな色の木材で組み立てる。テキスタイルは手造り風でこの中では日本的雰囲気の素材が多く使え、ジャガード、プリミティブなもの、フェルト、スエード、手編風の効果がここでも重要である。そしてテーブルクロスは、シルクの混紡などが注目され、他にベルベット、デニムなどプリミティブな仕上げ、パッチワークなどが使える。それからジャガードが重要で、このジャガードはファッションの世界でもプリントに取って代わります重要になってきている。又、様々なアニマルスキン、これは随分前のシーズンから出ているがこのテーマは未続していくと思う。現にファッションの世界でも、有名デザイナーが何度もこの



アニマルスキンを登らせている。もはやベーシックとなっている。但し新しいシーズンには、シミ、斑点のように仕上げてアニマルスキンを使っていく傾向がみられカーペットなどは、ベルベットで、アニマルスキンの感覚をリニューアルするため小さな幾何学模様などをプラスしていく。それがモダンな新しいエスニックとなる。

〈今シーズンのキーポイント〉

●色彩について

ホワイトと色の関係、ソフトなパステルカラーが重要。但しビビットなカラー、デザイナーズギルド風な鮮やかなカラーが終わりだということではないが、新たに非常にソフトなパステルカラー群が登場してきている。赤そしてパイオレットのカラーグループが大変重要視される。カラーでもう1つ重要なファミリーは、ダークマロンとチョコレート色。そして家具の素材として重要視したいのは、アルミとコンクリート。コンクリートは彩色していくことも出来る。又、プラスチックが今、急速に伸び、そして様々な複合素材が出現、ベークライトなども重要視される。

●素材について

テキスタイルでは、サテンのような光沢が重要視され、マクラメやカギ編のような手造り風な効果が重要になる。ジーンズ、デニム、フラネルなど起毛したコットン、小さなチェックやストライプのミックスアンドマッチなど、小さな幾何学模様なども重視される。又、芸術家からインスピレーションを得たような柄も大変重要になる。

●家具、その他

オブジェ、家具はこれから丸味を帯びる時代になり、シンプルでビュアなチューブ、パイプの流れの様なフォルム、雑貨では玉飾り、ビーズのような手造り感覚が重要視される。

日本テキスタイルデザイン協会主催にて、去る12月5日(木)、氷川会館において「ネリーロディの今と'98年インテリアトレンド」の特別講演を行なうことが出来ました。ネリーロディ女史は、25年以上に及び社会の動向、文化、を読み取り明日を予測、未来を提案することにより国際的なインテリア・ファッションビジネス業界において大変重要な役割を果たしてこられました。講演はスライドと通訳を交え進行スライドにより生活環境、生活志向、意識の説明があり、次にデザインストーリー、デレクションテーマ、それから注目される色、配色の説明など大変理解し易い内容であり、生活志向から(マーケティングポイント)入り、色、柄、モチーフなど素材を含めた流れの中に空間全体(スタイル)の説明、'98年トレンドとしての空間の位置付け、注目される形(フォルム)、様式など幅広い説明がなされました。その中でトレンドは20名程のデザイナーと社会学者も参加して練り上げられるという説明は、大変興味のあるお話であると共に、社会の動向、変化も読み取る上で大変重要なポイントであると考えられます。今回の講演は、定員も上回る参加申込みがありネリーロディ女史の我国インテリア業界での評価の高さを新ためて思うものであります。又、今回特に、多数の学生の参加者があり大変嬉しいことであると共に多少なりともインテリア、ファッションに興味をもてたとしたら講演の意味もあろうかと思えます。インテリア、ファッションビジネスも大変重大な時期、これらに携わる全ての人々にとってどのような物作りをするか、次の時代へ、21世紀への指標として今回の講演は非常に有意義のものであります。

レポート [今野文雄]